

美術科学習指導案

日時 平成17年10月13日(木)5校時
学級 2年A組(男子17名 女子16名)
指導者 教諭 中館 邦子

1 題材名 校内のここに貼りたい!こんなポスター ~伝えよう 大切なこと~

2 題材について

(1)教材観

本題材は、身近な問題に焦点を当て、自分の経験をふまえて校内生活を見つめ直し自分なりの主張やみんなに訴えたいことをポスターとして表現するものである。具体的に校舎のどこに貼りたいかを考えさせ、自分の身近な場所を見つめさせるところからも発想させていきたい。また、思いや考え・イメージを形や色などの造形要素で形象化していく表現の過程で、納得のいく追求をさせていきたい。そのために、何を表現したいかを考え、情報を集めて整理し、思いをどのように表現するか、材料や技法を適切に判断し駆使する基礎的な技能と、これを応用する創造力が必要になる。試行錯誤を繰り返しながらも、創意工夫してよりよく表すことや、自分たちの生活をより快適なものにしていこうという前向きな発想を大切にしていって取り組ませていきたい。

題材の終末の作品鑑賞会では、どんな思いや考えを表すために、どんな意図でどんな技法を使ったかという発表や友達の作品からの読み取りをさせたい。また作品を文化祭で展示するほか、「校内ポスターコンクール」としていくつか作品を選び、カラーコピーしてラミネート加工し実際に校内で使用したい。

(2)生徒の実態

生徒の学習態度は概ね意欲的である。1年次に「色彩の魅力」では色の3要素や平塗りの基本について、「レタリングの学習」では明朝体とゴシック体の基本について学習している。また、「様々な表現技法」という題材でモダンテクニックなどの表現技法の試しの活動を行っている。2年次では、「伝えよう ありがとうの気持ち~メッセージカード~」という題材で、短時間で発想しモダンテクニックなどの14の技法の中から選んで制作し、それぞれに選んだ技法に意欲的にチャレンジした(前回の題材)。

しかし制作段階におけるつまずきの観察をすると基礎技能や知識の不足から、思い切って制作できないことが多いようである。基礎技能や知識をしっかり理解させ、自分の思いや発想を生かすようにさせていきたい。ポスターの制作では、始めの発想・構想場面でアイデアを広げたり深めたりする事ができると意欲的に制作できるのではないかと考えた。事前アンケートによると、本学級では「アイデアスケッチ(発想を形として描くこと)は好きですか、嫌いですか」という質問に対して「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と答えた生徒は48%(16人)であり、その理由として「1~2つぐらいしか思い浮かばないから(6人)」「思いついてもあまり工夫できずに深まらないから(9人)」「イメージしたとおりに絵が描けないから(8人)」といったことがあげられた。授業では、基本的ないくつかのレイアウトのパターンを理解し自分の作品に応用させるという体験を通して、発想を広げたり深めたりするという楽しさを味わわせたい。

抽出生徒については、特にグループ学習の際に友達と理解の確認などをする場面で机間巡視しながら支援していききたいと考える。

(3)指導観

表現の意図に合わせてたくさんの造形要素(画面構成、配色、彩色方法の様々ななど)から取捨選択していくという造形活動は、3年次の自画像の作品に続いていく流れとして位置づけていきたい。また、自分自身(自己の内面)を見つめるという視点に迫っていく前段階として、身近なもの(学校生活)を見つめさせたいという意図もこの題材には込められている。

細長い画面への構成、表現したいテーマに沿ったレイアウトの工夫・配色・彩色方法といった造形要素を、表現意図に合わせて選択して制作させていきたい。そのためには、自分の経験から出発した思いや考えを大事にすることがポイントになると考える。人ごとのように考え、上辺だけでの考えで制作し

たポスターには訴える力がないし、自分で制作していてもつまらなくなってしまう。しかし一方、色や形・技法から発想し、自分の内面にあるものと結びつけていくという制作の仕方もあるので、行きつ戻りつの制作をする生徒への支援も大切にしたい。形や色形についてはできるだけ単純化し、余計なものは切り捨て、言葉と図柄がお互いを補いあうようなものにさせたい。

学習形態においては、一斉指導だけでなくグループ学習を取り入れ、お互いに理解の確認をしたり、技法などの応用の仕方について交流させたい。

『自己評価・鑑賞カード』として、毎回題材の最後に制作の振り返りとお互いの作品の鑑賞会を行っている。今回も作品の完成後にこのような時間を持つ予定である。昨年は『ゲルニカ』の鑑賞の時間をもうけ、技術的なものと、その作品に込めた作者の思いを読み取るという学習を行っている。本題材の鑑賞場面でも、造形要素とその作品に込めた作者の思いや意図について注目させていきたい。

(4) 研究主題との関連

本時の授業は、思考力の育成を基盤とした授業改善の中の理解の確認の段階である。表現の基礎・基本の中でも主に「考えやイメージをまとめ組み立てること(構想力)」に関わる場面である。レイアウトの基本を自分のアイディアスケッチに応用させることにより、発想を広げさせたい。

本研究は、表現の基礎・基本を伸ばす学習による思考力の育成をめざし、主体的な創造活動が育つことを明らかにするものである。

3 題材の目標

【美術への関心意欲態度】

- ・他者に思いや情報を伝えるための表現方法や構成、創意工夫の仕方に関心を持ち、それを表現に生かそうとする。
- ・友達との理解の確認などをしながら、計画に沿って最後まで根気強く、意欲的に制作に取り組もうとする。

【発想や構想の能力】

- ・校内生活を見つめ直し、自分なりの発想と構想でデザインすることができる。
- ・形や色、材料や用具の効果的な生かし方などを総合的に考えることができる。

【創造的な技能】

- ・伝えたい内容や情報に合う表現手段を用い、その特性を生かし、かつ自分らしく創造的な工夫をして楽しみながら表現することができる。

【鑑賞の能力】

- ・参考作品や友達の作品に接し、そのよさや造形的表現方法の特徴などを味わうことができる。

4. 題材の指導計画と評価規準

	時		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
学習動機 の明確化	1	参考作品を鑑賞し、表現技法やその効果などを考え、自分の作品に活かすためにその要点などを記録する。	表現活動に結びつけることを前提として作品に接し、表現方法や技法などを確認しようとする。 (観察・発言・学習プリント)			参考作品の表現の特徴などに関心を持ち、制作過程などを考えることができる。 (発言・学習プリント)
理解の 確認	本 時 1 3	制作の内容を知り、アイデアスケッチや言葉の羅列をすることで発想していく。	言葉の羅列やアイデアスケッチなどの活動を通してテーマを決めようとする。 (学習プリント・観察)	制作内容を知り、校内生活を元にした内容で発想し、言葉やアイデアスケッチなどの単純な形で表すことができる。 (学習プリント)		
		レイアウトの基本を理解し、アイデアスケッチに応用させる。	分からないところなどがあるときは班内で確認し、発想を広げようとする。 (観察)	レイアウトの基本を理解し、自分のアイデアスケッチに応用させることができる。 (学習プリント)		
		テーマにあわせた配色計画・彩色方法の検討をする。	自分のテーマにあうものを選択しようとする。(観察)	配色や彩色方法の工夫について理解し、自分の作品のテーマにあわせて選択することができる。 (学習プリント)		
3 活用 場面 の 設定	2	彩色方法を念頭に置き、下描き・レタリングをする。	完成イメージを持って計画的に制作しようとする。(作品)		画面全体のバランスを考えて下描き・レタリングすることができる。 (作品)	
	4	選択した技法により手順を考え彩色する。	他者に思いや情報を伝えることを常に念頭に置き、それを造形表現に活かそうとする。(観察)		表現手段の工夫をし、それらの特性を生かしながら創造的に制作することができる。(作品)	
	1	制作を振り返り、お互いの作品を鑑賞しあう。	制作について振り返り、お互いの作品の良さを主体的に鑑賞しようとする。 (発表・鑑賞カード)			自らの作品に客観的に接し、また友達の良い作品を見て、その良さや機能などについてコメントできる。 (鑑賞カード)

5. 本時の指導

(1) 目標

レイアウトの基本を理解し自分のアイデアスケッチに応用させることを通して発想を広げることができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
関心・意欲・態度	レイアウトの基本を理解し、さらに発展させて自分のテーマにあう構成をしようと意欲的に取り組んでいる。	分からないところなどがあるときは班内で確認し、発想を広げようとすることができる。	分からないところなどがあるときは班内で確かめさせる。
発想や構想の能力	レイアウトの基本をふまえて自分なりの発想で構成を工夫し、発想を広げていくことができる。	レイアウトの基本を理解し、自分のアイデアスケッチに応用させることができる。	レイアウトの基本を理解し、自分のアイデアスケッチにそのまま当てはめさせる。

(3) 展開

	学習活動・学習内容	留意事項・評価	配布資料・教具
導入 5分	1 前時の振り返り 2 本時の学習活動について説明し、学習目標を提示する。		美術ファイル
	レイアウトの工夫をして発想を広げよう。		
展開 35分	3 レイアウトの基本について提示する。 4 レイアウトのバリエーションから受けた印象についてプリントに記入し、発表させる。 5 先輩たちのアイディアスケッチを提示し、応用の仕方を確認させる。 6 レイアウトの基本を自分のアイディアスケッチに応用させる。	6つの基本を中心に教える。さらにバリエーションとして背景の工夫とあわせたものなど(学習プリントNo10)を提示する。 ・画面から受ける印象(言葉)を提示した選択肢の中から選んで書くことができる。それをもとに発表することができる。 (学習プリントNo11。見た後は回収する。) *レイアウトの基本を理解し、自分のアイディアスケッチに応用させて発想を広げることができる。【想】 *わからない事などがあるときは班で確認し、発想を広げようとする。 【関・意・態】 ・アイディアスケッチの中から実際に制作するものとして自分の意図にあうものを選択する。	紙板書 学習プリント(No10, 11)
終末 10分	7 本時のまとめ	今日の学習の振り返り(生徒作品を取り上げる) 次回は彩色方法を検討した上で下絵を描く活動であることを知らせる。	生徒作品 実物投影機

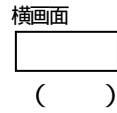
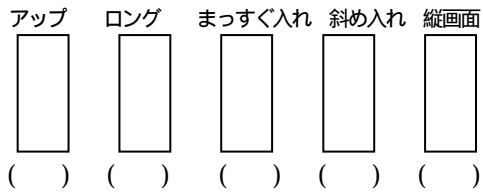
6. 板書計画

校内のここに貼りたい! こんなポスター
~伝えよう 大切なこと~

(2 レイアウトの工夫)

今日の目標
レイアウトの工夫をして発想を広げよう。

レイアウトの基本



レイアウトのバリエーション

